

# 点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

50

日本史を勉強した時に、印象に残った言葉。それは、「平家にあらずんば人にあらず」と「驕る平家久しからず」だった。前者は平家の隆盛、後者は平家の没落を表す言葉だ。

明治維新後の日本経済の変遷を見ても、繊維業→軽工業→重工業と、発展する業種が変化している。それは、企業も同じだと言われる。

情報技術の発展、AI（人工知能）の進化に伴い、今後消滅する仕事は〇〇という、雑誌記事も多い。今仕事をしておられる人も大

## 企業の生き残り策

きな関心を持っておられると思うが、就職活動を抑える学生にとっては最大の関心事項ではないか。

# ブランド化に活路

面的に転換。スポーツウエア、水着の受託加工が中心だったが、水着の撥水加工技術を活用して、「撥水加工した風呂敷」を数年前に開発。今やテレビでも取り上げられ、年間5万枚前後売れるヒット商品になったとのこと。

この企業は、受託生産が中心ながらも、差別化、ブランド化を目指して、「撥水加工した風呂敷」を開発されたとの由。「この開

たのは、業界の栄枯盛衰を先取りすることも大事だが、それだけであらうかということ。どのような業界においても、必ず活路はある。今や海外からの輸入品のウエートがかなり高くなっている繊維業界においても、消費者のニーズをくみ取るだけでなく、消費者のニーズを覚醒する形で、新商品を開

なぜこのような書き出しになったかと言えば、ある経済団体の講演会で繊維業を営む経営者のお話を伺ったからだ。

この企業は、昔は、天然繊維の織物を生産されていたが、化学繊維の織物に転換。さらにその後、織物からニットの染色仕上げに全

この「撥水加工した風呂敷」は水をくめるけれども、通気性が高いので、水を入れた風呂敷を絞ると広がった繊維の間から水が霧状

この話を聞いて思っ

抱いた。



岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを務めて、2018年4月から現職。